

WHOがコンゴに専門家派遣、「原因不明の病気」巡る調査支援へ

2024/12/9 ロイター



12月6日、世界保健機関（WHO）はアフリカのコンゴ民主共和国（旧ザイール）で頭痛、せき、発熱、貧血などを伴う原因不明の病気が発生している問題で、現地保健当局の調査を支援するために専門家を派遣すると発表した。写真はWHOのアフリカ地域ディレクター、マトシディソ・モエティ氏。2018年5月撮影（2024年 ロイター/Denis Balibouse）（ロイター）

12月6日、世界保健機関（WHO）はアフリカのコンゴ民主共和国（旧ザイール）で頭痛、せき、発熱、貧血などを伴う原因不明の病気が発生している問題で、現地保健当局の調査を支援するために専門家を派遣すると発表した。

南西部クワンゴ州パンジに向かう専門家が、必須医薬品と病気の原因を分析するための診断キットを届ける。

WHOは、原因を特定するための臨床検査が行われており、詳細な情報が入り次第共有すると述べた。

WHOのアフリカ地域ディレクター、マトシディソ・モエティ氏は「われわれの優先事項は影響を受けた家族とコミュニティに効果的な支援を提供することだ。病気の原因を特定し、感染経路を把握するとともに、可能な限り迅速に適切な対応を取るためにあらゆる努力を続けている」と語った。

WHOは公衆衛生当局のデータを基に、パンジ保健地区でこれまでに394人の感染と30人の死亡が報告されていると明らかにした。

現地当局は今週、この地域で発生した原因不明の病気で11月に143人が死亡したと公表した。

コンゴ 原因不明の病気 現地で医療支援の日本人語る

12/7(土)テレ朝ニュース



<https://news.yahoo.co.jp/articles/2a29248d2cc1754297867455ac8a3cad5ffac001>

アフリカのコンゴ民主共和国での原因不明の病気について、現地で医療支援をしている日本人の看護師は「世界規模の病気の広がりになってしまうのでは」と懸念しています。

MABADILIKO 土井直恵代表理事

「かなり若い人たちが亡くなっているのが、特徴ということでちょっと警戒しますよね」

この病気では、これまでに10代後半を中心に79人の死亡が確認されています。

土井さんは病気が発生している地域は首都のキンシャサから400キロの場所で、首都で流行すると「世界規模の病気の広がりになってしまうのでは」と懸念しています。

ただ、発生地域へのアクセスが悪く、病気の広がりを防ぐ要因になるのではと期待しています。

この病気の特徴には貧血があるようだという事です。